科目名 Subject	メイクアップⅡ Make-upⅡ		教員名	メイクチーム	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	2
必修／選択	選択	授業形態	実習	時間	60
実践的教育	○				
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	△	◎	○	◎
科目の概要	「メイクアップⅠ」で学んだベーシックな知識を発展させたメイクアップの応用を学ぶ。施術を行う対象者の個性に合わせ、どのような技術を施せば似合うのかを、学生自らが考え実践する。美しくメイクアップを仕上げる技術者の育成のみならず、化粧品の紹介や販売にも必要な知識を学ぶ。また写真撮影、動画撮影、舞台、ファッションショー、婚礼、高齢者へのメイクアップ等、の日常とは異なる現場でのメイクアップ技術・知識も学ぶ。デモンストレーションによる展示または資料写真を参考に相モデルでメイクアップ作品を制作する。				
授業の目標	様々な顔立ち、肌色にあわせたメイクアップができるようになる。 一つの表現をするのにはさまざま方法があることを理解し、何種類かの方法の中から学生が主体的に手法を選択し、臨機応変に対応できるようになる。施術される側の 顔の立体感、陰影、各パーツの特徴、性格や好み、ライフスタイルを理解し、似合うメイクアップを提供できる知識、技術、経験を身につけ、メイクアップを通じて施術を受ける側の満足感を提供できるようになる。				
時間外学習 （予習・復習）	タブレットに教員作成の資料が事前に送られる。各回の授業前にそれらを読み授業の内容、意味を理解しておく。授業終了後には課題が出されることがあるため自宅でデッサンや、タブレットで撮影した顔写真を指定された様式に添付し作品課題として提出する。また各回の講義内容を自宅で復習し、次回の授業に向けた準備とする。予習と復習、課題制作、撮影作品制作準備に必要な時間数は合計で約３０時間である。				
教科書・教材	教科書	教員作成資料			
	教材	洗顔料、タオル、ティッシュ、コットン、綿棒。			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	なし			
評価方法	作品制作２５％、筆記試験２５％、小課題２５％、平常点２５％				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
学生へのフィードバックの方法	定期試験の要点について、掲示にて解説を行います。				
	小課題について個別にコメントを返します。				
履修上の注意	提出課題は作品のデッサンと写真を提出してもらいます。やむを得ず欠席した場合は各自で作品制作を行い提出してください。				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第１回	立体分析の意味を学ぶ。	顔の立体的な構造を理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第２回	自身の顔の立体を学ぶ。	自身の顔の立体感を正しく理解し面取りができる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第３回	立体分析の個人差を学ぶ。	顔の立体感に個人差があることを理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第４回	他者の顔の立体を学ぶ。	個人差のある顔の立体感に適切なベースメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第５回	日常のメイクアップについての注意点を学ぶ。	日常のメイクアップの応用理論を理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第６回	日常のメイクアップについての技術を学ぶ。	日常のメイクアップの応用技術を表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第７回	骨格分析の意味を学ぶ。	頭蓋骨の基本的な構造を理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第８回	自身の顔の骨格を学ぶ。	自身の骨格をメイクアップで表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第９回	老化による顔の変化を学ぶ。	老化による顔の筋肉や肌色の変化を理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第１０回	老化による顔の変化をメイクアップで表現する。	顔の形の違いや、美齢学に基づいた年齢による顔の違いを理解しメイクアップ施術で表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第１１回	演劇ステージメイクアップの知識を学ぶ。	日常のメイクアップとの違いを理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第１２回	演劇ステージメイクアップの技術を学ぶ。	演劇ステージメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第１３回	１９３０年代のメイクアップトレンドを学ぶ。	１９３０年代のファッションやメイクアップのトレンドが理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第１４回	１９３０年代のメイクアップを表現する。	１９３０年代のメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第１５回	１９５０年代のメイクアップトレンドを学ぶ。	１９５０年代のファッションやメイクアップのトレンドが理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第１６回	１９５０年代のメイクアップを表現する。	１９５０年代のメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第１７回	１９６０年代のメイクアップトレンドを学ぶ。	１９６０年代のファッションやメイクアップのトレンドが理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第１８回	１９６０年代のメイクアップを表現する。	１９６０年代のメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第１９回	和装のブライダルシーンの知識を学ぶ。	洋装ブライダルメイクアップとの違いが理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第２０回	和装のブライダルメイクアップの技術を学ぶ。	和装花嫁のメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第２１回	洋装のブライダルシーンの知識を学ぶ。	ブライダルの現場で求められる知識や振る舞いを理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第２２回	洋装のブライダルメイクアップの技術を学ぶ。	洋装のブライダルメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第２３回	肌色によるメイクアップ応用の知識を学ぶ。	肌の色になぜ違いが生まれるか理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第２４回	肌色によるメイクアップ応用の技術を学ぶ。	肌の色によって提供する技術を変える事ができる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第２５回	海外の秋冬メイクアップトレンドを学ぶ。	パリ、ロンドン、ＮＹ等のメイクアップトレンドが理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第２６回	海外のファッションショーでトレンドになった秋冬メイクアップスタイルを模写する。	海外でのファッションショーで必要な技術が表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第２７回	写真撮影のメイクアップに関する知識を学ぶ。	スタジオでの写真撮影に必要な知識が理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第２８回	写真撮影のメイクアップに関する技術を学ぶ。	スタジオでの写真撮影に求められる技術を表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第２９回	作品制作のリハーサルを行う。	作品制作に向けチーム内で意見を出し合い、メイクアップに反映する事ができる。	チーム内で作品の方向性を話し合い、共同作業が円滑に進むよう調整する。
第３０回	作品コンセプトの発表を行う。	チームごとに作品のコンセプトを発表できる。	作品制作本番に向け最終調整を行う。